

## 第7回汎北部湾経済合作フォーラム

ERINA 調査研究部主任研究員 中島朋義

7月12～13日に中国広西チワン族自治区南寧市で開催された、第7回汎北部湾経済合作フォーラム（写真）の分科会、シンクタンク・サミットに、報告者として参加した。

同フォーラムは北部湾（南シナ海北部を指す）を囲む、東南アジア諸国と広西チワン族自治区など中国南部地域の経済協力を目的に、継続的に開催されている行事である。運営は地元自治区政府のみならず、中央政府、自治区内外のシンクタンク等の協力によって行われている。また、開会式の主賓としては日本の衆参両院副議長に相当する、全人代常務委員会副委員長と全国政治協商会議副主席が来臨し、中国全体としての力の入れ方を伺うことができた。

分科会であるシンクタンク・サミットは今回で三回目の開催となった。分科会の開催担当は広東省深セン市のシン

写真 汎北部湾経済合作フォーラムの会場



（出所）筆者撮影

クタンク、総合開発研究院であった。全体テーマは「Global Rebalancing: Cooperation & Development in Pan-Beibu Gulf Area」と設定され、その下に三つのセッションが設けられた。第一セッションは「Diversification of Regional Cooperation & Asia Pacific FTA」と題し、地域内協力とアジア太平洋地域のFTA（自由貿易協定）の動きについて議論が行われた。第二セッションは「Multilateral Trade System & Pan Beibu Gulf Cooperation」と題し、多国間貿易システムと汎北部湾協力の関係について議論が行われた。第三セッションは「RMB Internationalization & Reigional Financial Cooperation」と題し、人民元の国際化と地域内の金融協力について議論が行われた。

筆者はこの内の第一セッションにおいて、前掲の三国協力事務局セミナーと同じく、“The TPP and East Asian Economic Integration: From the Japan-China-ROK perspective”と題し、TPP（環太平洋経済連携協定）と

東アジア経済統合の関係について報告を行った。このセッションでは、中国からは国家発展改革委員会対外経済研究所所長の畢吉耀氏、韓国からは前掲の三国協力事務局セミナーと同じく、ERINAと協力関係にある対外経済政策研究院（KIEP）研究委員の李昌在氏、米国からはEconomic Strategy Instituteの所長のClyde Prestowitz氏他が、それぞれ報告を行った。

この他、分科会全体では、タイ、ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピンの東南アジア各国シンクタンクの研究者、アジア開発銀行のエコノミストの参加があった。

今回、中国さらには北東アジアと東南アジアの結節点ともいえる広西チワン族自治区で、域内協力の促進を目指す国際会議に参加できたことは有意義であった。こうした活動は今後、北東アジアのシンクタンクとして、ERINAの認知度を向上させることにつながると考える。